マザー・テレサの言葉

あなたのなさることを、私は出来ません。

そして、私のすることを、あなたは出来ないでしょう。

でも、わたしたちはみんな、神様がおゆだねになったことを果たします。

カトリック高松教区報

２０１５年１１月１日（第１６９号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

「いつくしみの特別聖年」迎え

御父のようにいつくしみ深く・・・

高松教区司教　諏訪榮治郎

私たちの国は「集団的自衛権」の可決によって、時に武器を持って「平和」を構築するという方向に進もうとしています。

しかし国民のあらゆる層が、戦争をとおして問題解決に向かうことに抗議の声を上げ続けています。

ここに改めて私たち宗教者の平和への思いは、平和が個人と集団の責任であって、一人ひとりの柔和な「心の平和」と、互いが尊敬を持って対話し、和解する心から生まれる「世界の平和」によるものであることを確認いたします。

最近、教皇フランシスコは「もう第3次世界大戦が散発的に始まっている」と言われました。シリア、イラク、中近東、アフリカの国々、アジア、イスラム原理主義のテロ、また命からがらの難民のおびただしさ。

加えて、国を飲み込もうとするグローバル化した利益集団、市場経済主義の奴隷となり人間の尊厳が否定され命が蝕まれている現実があります。

そのような闇の力は神への畏敬の念を奪い取り信仰心をすみに追いやろうとさえしています。

そんな混沌とした世界にむけて、教皇フランシスコは「いつくしみの特別聖年」を公布いたしました（2015年4月）。

大勅書「イエスキリスト、父のいつくしみのみ顔」が著されています。この「いつくしみの特別聖年」は「御父のように、いつくしみ深い者となりなさい」（ルカ6・36）を標語とし、2015年12月8日「無原罪の聖マリア」の祭日に聖なる扉（聖ペトロ大聖堂）が開かれる時から始まり、2016年11月20日「王であるキリスト」大祝日に扉は閉鎖されます。

教皇は冒頭に「第2バチカン公会議閉幕50周年にあたる今年、現代人に神のいつくしみと赦しをもっとわかりやすく語らねばならない。」同時に、「長い間、教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げねばならない時が来た」また「教会が厳格さという武器をふりかざすよりもいつくしみという薬を用いることを望む」と語ります。

そこに語られる神の愛といつくしみによる赦しは無限に広がり、私たちを回心と新たな命へと招きます。

この冊子は皆さまに配られます。この1年、私たちはこの冊子で分かち合い、黙想し、祈りの集い、典礼と秘跡、養成、さまざまな集会や行事、巡礼などをとおして、改めて御父のいつくしみを深く味わい、体験する機会を持つことになります。

教皇様は実に多くの人々に向けて聖年に関しての行事を提案されております。大きな矛盾に満ちたこの時代に、私たち教会が神のいつくしみを体験し、確信をもって告知し、扉を開く時、すべての人々への慰め、ゆるし、支え、助け、愛と光の場となるでしょう。

教会が現代に生きる人々とともに歩み、神のいつくしみを味わう救いの道具となることを祈り願います。

教皇様に応えて来年度の司教書簡は「神のいつくしみと赦しの恵み」について述べさせていただきます。聖霊の導きにおいてこの聖年の日々を大切に生き、豊かな賛美がささげられますように願っております。

特別聖年の概要

4月11日に教皇フランシスコが公布された「いつくしみの特別聖年」布告の勅書は、全25章からなっています。

その内容は、主に3つの部分に分けられ、最初の部分で教皇は聖年の開催方法、意義、モットーを紹介、続いてこの聖年を実り多く生きるための具体的な態度を助言し、最後に聖年を生き方を変える機会とするよう様々な呼びかけを行なっています。

この特別聖年が今年12月8日の無原罪の聖母の大祝日に始まることについて、教皇は、マリアの無原罪の御宿りを、人類を悪の力の中に取り残すことのない神の愛のしるしとして示すと共に、この日が第2バチカン公会議の閉会から50周年にあたることを指摘されています。

聖ペトロ大聖堂での聖年の扉が開けられることに続き、12月13日（日）に、ラテランの聖ヨハネ大聖堂で、続いて城壁外の聖パウロ大聖堂、聖マリア大聖堂でも同様に聖年の扉が開門すると教皇は説明しています。

一方、聖年は、2016年11月20日、王であるキリストの大祝日に、聖年の扉を閉じることで終了します。

教皇は、閉幕にあたり、この聖年の恵みをくださった神に感謝を捧げながら、全人類とすべての天地をキリストの統治に託したいとしています。

教皇は、地方教会や巡礼聖堂においても、聖年開催期間中、同じように「いつくしみの扉」を開き、全教会との交わりのしるしとして、地方レベルでも聖年を祝うようにと定められました。

神のいつくしみは永遠と教皇は述べながら、このいつくしみは神だけの態度ではなく、わたしたちもまたいつくしみを生きるように招かれていると強調し、「御父のように、いつくしみ深く」とこの聖年のモットーを掲げられました。

聖年をより有意義に過ごすために、教皇はいくつかのことを勧められています。それらは、巡礼を行なうこと、人を裁かず、赦し、与えること、社会において疎外された弱い人々に心を開くこと、精神的・物質的ないつくしみの業を行なうことなどです。

教皇は聴罪司祭らに対し、いつくしみ深い御父の真のしるしになるようにと願うと共に、聖年の特徴である免償は、わたしたちの罪に対する神の赦しは果てしないことを表すものと述べています。

この聖年を、生き方を変える機会として示しながら、教皇は犯罪組織に関わる人々、汚職に関係する人々に回心を呼びかけています。

さらに、教皇はこの聖年に諸宗教対話が深まることを期待されています。

この勅書を締めくくるにあたり、教皇はいつくしみの母であるマリアと、神のいつくしみを深く生きた聖ファウスティーナ・コヴァルスカ修道女を心に留めながら、人々に心の扉を開け続ける神に驚きを感じて欲しいと信者たちに願われています。

生き方変える機会に

12月8日から来年11月20日

すべての人間が尊重され 貧困や飢餓と戦う勇気を

「正義と平和」全国大会に参加して　尾崎寿一

9月21日から3日間、東京カテドラル大聖堂を中心に「正義と平和」全国集会が開催された。

参加者は延べ約2100人、韓国カトリック教会からユ・フンシク正義と平和委員会担当司教と、脱原発のために活動する司祭、修道者、信徒約25名の方々が招待に応えて出席された。

高松教区からは諏訪司教、イル神父と信徒6名が参加した。

この大会の目的は、すべての人の人権が尊重され、平和な世界が実現されるために私達に何が出来るのかを学び、考えることであった。

一日目の基調講演は、政治学者で上智大学教授の中野晃一氏。先生は現代の世界の流れ（少数派による支配）や、従軍慰安婦問題、50年村山談話、70年安倍談話を分析して、「大切なことは、人間の尊厳が護られているか」という事であると述べられた。

講演の最後に、参議院特別委員会の公聴会で発言したSEALDs（シールズ）の奥田愛基さんの言葉、「どうか、どうか、政治家の先生達も、個人でいてください。政治家である前に、派閥に属する前に、たった一人の個であってください。」

全国から東京カテドラルの大会に集った善意の人々

そして「現代世界憲章」・「戦後70年司教団メッセージ」を中心に、教会と社会の関わりについてシンポジウムが進められた。

勝谷司教は、「神は、人間が対立した時、武器による戦争ではなく、対話によって解決することを望まれている。教会は先の大戦時の反省から、日本の現状に対して発言しないわけにはいきません。なぜなら、神の摂理が地上に平和の実現を求めているからです。私達には意見を表明する権利があります。信徒も自分の良心に基づいて政治活動を行うべきです。」と言われた。

菊池司教は、「貧困への取り組みは“平和”への取り組みです。すべての差別は神の意図に反するものであり、克服され、排除されなければなりません。

地上の富は神が万人のために供されたもの。したがって公正にすべての人に行き渡るべきです。私達は人間の尊厳が護られ、貧困や飢餓と戦う勇気を持たなければなりません。」と話された。

3日間の正義と平和東京大会に参加して、私は自分が度々福音から離れて行動していることに気づかされた。これからは福音のメッセージを受け止め、考え、愛に基づいて行動することを心に留めよう。地上の平和を求めて、祈り、行動出来る自分でありたい。

自分の信じる正しさに向かい、勇気を出して思考し、判断し、行動してください。」という箇所を、未来に希望をつなぐものとして紹介された。

三日目に、社会司教委員会の松浦悟郎司教（難民移住移動者担当）、菊池功司教（カリタス担当）、勝谷太治司教（正義と平和担当）の3司教によるシンポジウムがあり、司会の松浦司教から、第2バチカン公会議以降、閉ざされていたカトリック教会を、社会に開いていったことの説明があった。

はばたき

早くも今年もまもなく待降節がスタートします。私たち一人一人が主のご降誕を迎えるに相応しい準備に勤しんだ後は、その時が来るのを心穏やかに待ちましょう▼心躍らせながら待ち望むには、ただ漫然と指をくわえているのではなく、迎え入れる環境を築くべく積極的に行動してこそ、待つ楽しみは増すものです▼本年三月に発行された教区報１６５号より本欄「はばたき」を担当させて頂いて参りましたが、この１６９号を以てペンを擱かせて頂きます▼そこで、これまでの各号を再読して頂くためのきっかけとして、以下にネタばらしを試みます▼執筆にあたり、一貫して目指したテーマは、カトリックの礎である「愛」です。しかし、これまでの原稿中を探して頂いても、生憎、一カ所しか見つからないでしょう。では、「ａｉ」なら如何でしょうか。勿論、そのままでは発見できませんが、その前に子音を一つ加えてみると、多くの漢字が作り出せます▼「灰」・「再」・「来」・「会」・「体」・「内」・「外」・「待」。かなり無理をして言葉を繋いだ箇所も散見されますが、そこに通底している「愛」を感じ取って頂けることをご期待申し上げ、次号担当者さまにバトンをお渡しします。永らくご愛読くださった皆さまに、心より感謝致します。

小教区紹介
桜町教会（香川）

私が桜町教会の議長を務めた4年間の桜町教会についての振り返りを中心に、この4年間で桜町教会の議長として目指してきたものについて、以下5点を挙げたいと思います。

①信徒総会のあり方の見直し②小教区内での信徒の交わりの強化③中学生になると教会を離れてしまう若者をいかに教会へ来られるようにするか④初めて教会に来れた方への対応⑤その他司教座聖堂のため数多くの行事をいかにこなしていくか。

司教座聖堂として様々な模索

桜町教会での国際交流風景

①信徒総会については、全信者から意見を聞き、評議会での決定事項を周知する場という位置づけから事前アンケートを行い総会の中で集約したアンケートを披露し、意見交換の形式に変更しました。

例えば今年は、病者・高齢者訪問について、これまでの経験で良かったと思うことや残念に思うこと、また、まだ経験のない方への提案や思っている事をアンケート用紙にご記入いただき集約しました。

３０以上のご意見をいただき、中には『教会とつながっていると感じていただけたことがとてもうれしかった』という意見もあれば、『話したことの無い人に対しての訪問は疲労感が出る』とか『訪問すること自体迷惑でないかと気を遣う』といった素直なご意見ご感想があり、それら多くの“声”をもとに意見交換が出来ました。

②小教区内での信徒の交わり強化については、地区会を聞きミサ後に茶話会を行ったり各地区での集会を何度か開催しました。本来の目的の一つは教会から長く離れている方や孤独な方などに地区の方々が声をかけて教会とのつながりを持っていただくことにありました。

しかし、その目的を達成することなく現在ほとんど地区会は機能していない状態です。

③中学生以上の若者の教会離れについては、長年の課題ですが、決定的な手立てがない現状です。ただ月1回行われる「子供と共に捧げるミサ」の伴奏を青年たちに手伝っていただくよう声掛けをしております。

④教会に来られた方への対応については、2年続けて意見交換会のアンケートの題材にするほど大事なことだと考えております。その意見交換会の中で現状の共有や問題点、今後の対応等について話合いました。

その中で初めて来られた方たちが、また教会に行きたくなるようなおもてなしが大切であるとの共通認識がありました。しかし教会に来られる方、人それぞれが教会に望むことは異なり一律の対応では満足していただけないケースもあるとの意見もありました。

そこでの必要な共通対応は、『声掛け』ということでした。案内係だけでなく気づいた方全員が心掛けていくことが大切であると。

⑤司教座聖堂としての対応については、ここ何年という単位ではなくずっと以前から桜町教会の皆さんはその意識が非常に高く、とても協力的にお手伝いしていただいております。

ここでの課題は、教区や地区またブロックなど協力司牧としての行事に対してお互いにコミュニケーションが不足しているのではないかということです。

その行事の責任者があいまいであったり役割がきちんと決まっていなかったりということによりコミュニケーションが悪くなるケースが見られました。

最後に今年6月の信徒総会から新議長に三宅克也さんが就任されました。その影響もあり今後は桜町教会と教区や地区、ブロックのコミュニケーションは今まで以上に良くなっていくと思います。

メールを活用した情報共有や司教・司祭・信徒とのコミュニケーション方法など、今までになかった動きを見ることができます。今後の桜町教会の成長を楽しみにしております。

桜町教会　山本謙吾

子どもの話をよく聞こう
教区教会学校リーダー研修会

朝夕が少しだけ過ごしやすくなった8月22日（土）に、第41回カトリック高松教区「教会学校リーダー研修会」が、徳島教会で開催されました。

Sr.景山（前列中央）を囲む教区教会学校リーダーた

今年は講師に、援助修道会の景山あき子シスターを迎え、テーマは『今、教会学校にできること』でした。

シスターは、40年以上修道会を通し、子ども達のために働いておられます。「こじか」や「うれしい初聖体」などの執筆活動でご存じの方も多いと思います。

参加者は34名で、愛媛からもシスターにお会いしたくて」と、遠距離をおひとりで運転して参加された方もおられました。

講話の冒頭、シスターは、「いいテーマですね。子どもが少ないとか、あれはできないとか、後ろ向きのことが多い中、前向きでいいですよ。」と、おっしゃいました。

講話の中で、「神父様ってロボット?」と質問した子がいたなどの楽しいエピソードをたくさんお話しくださり、和やかな恵み多い時間でした。

また、教会学校活動での具体的なヒントも、たくさん頂きました。子どもの発達段階に応じたカリキュラムの重要性もとても参考になりました。でも、何より大切なことは、子どもを喜んで迎えることだと、再確認しました。

「子どもには、大切にされているという実感が必要です。まず、子どもの話をよく聞きなさい。聞いてもらった子どもは、他の人の話をよく聞くようになります」と。

今、子育ての真っ最中の私には、反省しなければいけないことがたくさんありました。

「教会は、神学校ではありません。私たちがしなければならないのは、福音を伝えることです。」

シスターは生涯を通して子ども達に愛を注がれています。シスターから頂いたお恵みを、少しでも子ども達に伝えていけたらと思います。

徳島教会
クララ　松永知子

ひと
あみものカフェで交流の輪
道後教会　長岡由美子さん（52歳）

編みものをする長岡さん

道後教会では毎月第４水曜日に「あみものカフェ」が開かれている。そのお世話役が長岡由美子さん。「あみものが好きな方ならどなたでも参加できます」ということで、毎回手を動かしながら楽しそうに話し、豊かなひと時を過ごす女性たちの姿がある。会費はお茶とお菓子付きで百円と超格安。

『みんなが集まって、人と人が歓迎され大切にされているという思いを持って帰ってもらえれば』と長岡さん。教室ではないので技術修得というよりは好きなものを自由に編む。

昨年は教会のミサのときに使ってもらうヒザ掛けをたくさん作った。今年は東北大震災で被災し仮設で暮らす人たちへ毛糸のヒザ掛け47枚を送ろうと決め、クリスマスまでに間に合わせようとがんばっている。体に暖かいというだけでなく、『忘れてませんよ』の心も伝えたいという。

参加者は多いときで十数人、年代も30歳台から80歳に近い人も。信者でない人もいるが、会の始めと終わりにはお祈りをし、みんなで共に大切なひと時を過ごせたことを神様に感謝する。

教会の活性化にも一役買っているカフェ。『ここに来れば誰かがいる』というような温かくて楽しい雰囲気にあふれた場になればと長岡さんは願っている。

道後教会　丸尾修

神学生便り
交流の喜び素晴らしさ
神学科2年　高山徹

神学院4年目の夏休みを振り返りながら、この記事を書かせて頂いております。夏休みならではの体験学習と共に、研修にも与らせて頂きました。少しご報告させて頂きます。

体験学習として、世界ジャンボリーのミサ、福島の子供たちの保養合宿、そして広島教区の小中学生の夏期錬成会やベトナム共同体の集い等にも参加させて頂きました。それらに共通するのは、教会内外の人々の交流と協働です。中心的に遂行し人を集める方々のご苦労と喜び、参加・協力する方々の関心・喜び、また時にスムーズにいかずに困ったり疲れたりしながらも乗り越えていく素晴らしさ。私も共に過ごさせていただく中で分かち合わせて頂きました。

広島教区での錬成会の一コマ

自分の至らなさも、改めて感じ、今後の課題として肝に銘じる所存です。

研修としては、高松教区教会学校の研修会と、教員免許状更新講習でした。教会学校も公教育の学校も、指導者が協働し青少年を育む場・共同体だと思います。特に教会学校は、子供たちを大切に愛し、子供たちが神さまとの関係を結んでいくお手伝いをする使命を有していると感じました。

学校（教会学校も含め）

貧しい人に食事提供し７年
松山教会のボランティアグループ

『生活に困っている人たちに幸せの分かち合いをしよう』と松山教会のボランティアグループが毎週水曜日に食事の提供を続けている。同教会の司祭の勧めもあり、２００８年の復活祭から有志が集まってスタートし7年が過ぎた。

食事作りに大忙し

はじめは市内の河川敷の橋の下、公園、駐車場、駅などへ食べものを運んで奉仕をした。『こんなにいろんなところに困っている人がたくさんいたこと知らなかったので驚きました』と、この運動に最初からかかわってきた大西正子さんは語る。

２年後からは松山教会で弁当を手渡すようになった。

水曜日午後になると心待ちにしている生活に困っている人たちが教会前に集まってくる。現在約70個弁当を用意して手渡している。

大西さんらお世話する人たちは毎週水曜日には教会に集まり弁当作りをする。『ありがとう』『助かったわい』とうれしげに受け取ってくれる笑顔を見ることが一番うれしいと世話をする人たちは話す。

野菜の煮物など家庭の味が人気で、梅干しも必ず付ける。集まってくる人々にとって教会は神様がいる場所、安らぎの場でもある。

母を亡くした人は教会の人が聖堂で一緒に祈ってくれるうれしかったと話す。

ボランティアの一人は作業を通して神を知り受洗の恵みを受けた。

厳しい世を生きる弱い人々に手を差し伸べ助け、ともに生きる松山教会の奉仕作業はこれからも続いていく。

新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」日本語改訂訳に基づく変更箇所

２０１５年11月29日（待降節第１主日）から実施

カトリック中央協議会は司教常任委員会と典礼委員会で検討した結果、ミサの式次第改訂に関する認証をバチカンから得られるまでは、総則改訂訳の公表は差し控えることになりました。

しかし、早期に実施しても大きな混乱を招かないと思われる変更箇所（司式司祭と共同司式司祭、助祭に関する変更と、日本における適応など）を、早めに慣れておくことが望ましいとの考えで今回の公表を2月の臨時司教総会で認可。今回、信徒に関わる主な部分を掲載します。司祭との事前の打合せや確認を行い準備に役立てましょう。（札幌教区ニュースからの転載）

【ミサ全体に関する留意事項】

◆司祭、助祭、奉仕者の席

①司式司祭の席は内陣に用意する。

②助祭の席は、司式司祭の近くに置く。

③奉仕者の席は、司祭・助祭の席と明確に区別する。

◆動作・姿勢

①参加者一同が共通の姿勢を守ることによって、祭儀に集まったすべての人の一致がしるしとして表されます。個人的な好みや自由裁量によって決めることは望ましくない。

②日本の適応として、ミサの中では立つことと座ることを基本的な姿勢にする。

③立つことが定められている場合でも、健康上の理由や他の重要な理由がある場合は座ることができます。

④日本の適応として、パンとぶどう酒の聖別のとき、会衆はひざまずくのではなく立ったまま手を合わせます。そして、聖別の祈りの後、司祭・助祭とともに手を合わせて深く礼をする。

◆沈黙

①沈黙には行動的参加（聖なる沈黙）として重要な側面がある。

②ミサ中のみならず、ミサ前後の教会堂内はもちろん、教会堂に隣接する場所でも沈黙が守られるように配慮する。

◆オルガンや他の楽器の使用

①待降節には主の降誕の喜びを先取りしないよう節度をもってオルガンや他の楽器を用いる。

②四旬節には、歌を支えるためだけにオルガンや他の楽器を使用する。ミサが始まる前とミサ後、奉納行列、聖体拝領などのとき、楽器のみによる奏楽は控えます。

③ただし、四旬節第4主日と祭日・祝日は例外。

【ミサの準備】

◆祭壇布・ろうそく・十字架

①祭壇を覆う祭壇布は白色を用いる。

②祭壇の上にろうそくを置く場合、パテナと力リスが会衆からはっきり見えるようにする。

③ろうそくは、どの祭儀においても少なくとも2本置く。

④主日や守るべき祝日の場合は、ろうそくを4本もしくは6本置く。

⑤教区司教が司式する場合はろうそくを7本置く。

⑥祭壇上もしくは祭壇の近くに、磔刑のキリスト像のついた十字架を置く。救いのためにいのちをささげたキリストを思い起こすためです。

⑦入堂行列の時に行列用十字架として運ぶこともできる。

◆祭壇の装飾

①典礼季節や祝祭日の特徴を考慮し節度を守る。

②日本の適応として、四旬節の特徴をふまえて控えめに祭壇を花で飾ることができる。

◆司祭の祭服

①司式司祭はアルバとストラの上にカズラ（プラネタ）を着用。

◆入堂行列で運んだ十字架とろうそく

①磔刑のキリスト像のついた十字架を入堂行列のときに運び、祭壇の近くに置くことができる。

②磔刑のキリスト像のついた十字架がすでに祭壇近くにある場合は、行列用十字架は他のふさわしい場所に置く。

③入堂行列の時に運んだろうそくは、祭壇の上もしくは祭壇近くに置く。

◆内陣にある聖櫃への表敬

①聖櫃が内陣にある場合、ミサの始めと終わりに聖櫃に表敬する動作が加わる。

②日本の適応として、司祭・助祭と他の奉仕者は聖櫃の前で立ったまま手を合わせて深く礼をする。

③その後、開祭以降のミサ中の表敬は省く。

◆祭壇への表敬

①祭壇前で司祭・助祭と奉仕者が手を合わせて深く礼をし表敬する。

②司祭・助祭は、日本での適応として、両手で祭壇に触れて深く礼をする表敬が加わる。

③共同司式司祭が行列に加わる場合も同様に祭壇に両手で触れ深く礼をして表敬する。

④共同司式司祭の人数が非常に多かったり、健康上の理由など正当な理由で行列に加わらず、すでに着席している共同司式司祭は、祭壇に表敬する必要はない。

◆会衆へのあいさつとミサへの導入

①祭壇からではなく、通常、自席から立って行い、祭壇は供えものの準備の時から使用する。

②内陣の広さや構造などによっては、祭壇から行うこともできる。

③その日のミサへの短い導入は、司祭だけでなく、助祭もしくは信徒の奉仕者が行うこともできる。

◆回心の祈り

①回心の祈りへの招きの後、一同が自らを振り返ることができるよう、短い沈黙のひとときをとる。

②ミサの回心の祈りにおける司祭のゆるしのことばは、ゆるしの秘跡としての効果をもたらすものではない。

【ことばの典礼】

◆ことばの典礼における沈黙

①『典礼憲章』30条では「聖なる沈黙」を守るように求められている。日本の適応として、第1・第2朗読の後、朗読された神のことばを味わうために、答唱詩編とアレルヤ唱（詠唱）が始まる前に沈黙のひとときをとる。

◆朗読台の使用

①聖書朗読は、神のことばの食卓である朗読台から行う。

②朗読台はことばの奉仕のみに用いる。

◆朗読の務め

①ミサの中の聖書朗読の務めは、司式者ではなく朗読奉仕者の務めであり、洗礼による祭司職の行使となる。

②福音朗読は助祭の務め。助祭不在の場合は他の司祭によって告げられる。

③一つの朗読を複数の朗読者によって行われるのは、主の受難の朗読に限られる。

◆答唱詩編

①答唱詩編はできる限り歌うように求められている。詩編を歌うことが難しい場合も、答唱だけでも会衆が歌うことが望ましい。

②詩編を歌うことができない場合は、詩編をふさわしい方法で朗唱する。

◆福音朗読前の応唱（アレルヤ唱詠唱）

①アレルヤ唱（詠唱）の唱句は聖歌隊あるいは先唱者によって歌われ、会衆は「アレルヤ」を歌って参加する。

②日本の適応として、聖歌隊が無かったり、先唱者がいなかったりする場合は、一同が全てを通して歌うことができる。

◆福音朗読

①司祭が福音朗読する場合、初めに司祭は手を広げるのではなく、助祭の代わりとして司祭が朗読するため、手を合わせたまま「主は皆さんとともに」と唱える。会衆は「司祭とともに」と答える。

②朗読する司祭は、福音書に十字架のしるしをしながら「○○○による福音」と唱えていたが、今後は、「○○○による福音」と唱え、親指で福音書、ならびに自分の額、口、胸に十字架のしるしをする。

③会衆は「主に栄光」と唱えながら、司祭と同様に自分の額、口、胸に十字架のしるしをする。

◆説教

①説教を信徒に委ねることはできない。

②説教は自席、朗読台、もしくはふさわしい場所に立って行う。

③説教の後、すぐに信仰宣言もしくは共同祈願に移るのではなくふさわしい沈黙のひとときをとる。

◆共同祈願

①意向は、朗読台もしくは他のふさわしい場所から唱える。

②意向を唱える務めは洗礼による祭司職の行使なので、助祭、先唱者、朗読奉仕者、信徒がその務めをたす。

【感謝の典礼】

◆供えものの準備

①共同祈願が終わると一同は着席する。

②供えものの行列が行われない場合も、準備の間、奉納の歌を歌うことができる。

③パンとぶどう酒いがいのものは、祭壇上ではなく他のふさわしい場所に置く。

④献香する場合、司祭はパンとぶどう酒、十字架と祭壇に献香する。

⑤その後、奉仕者は祭壇横で、香炉を3回振って、司祭と会衆に献香する。

◆聖体授与の臨時の奉仕者

①臨時の奉仕者は司祭が拝領してから祭壇に近づく。

②奉仕者は、司祭・助祭から聖体を拝領する。

③奉仕者は祭壇に置かれたパテナもしくはカリスを自分で取るのではなく、司式司祭から受け取る。

【閉祭】

◆退堂

①退堂の時も、入堂行列と同様に司祭・助祭の祭壇への表敬が加えられた。

②共同司式司祭は、退堂時には両手をついての祭壇表敬は行わない。

③聖櫃が内陣にある場合、司祭・助祭が祭壇に表敬した後、司祭・修道者・他の奉仕者は聖櫃の前で立ったまま手を合わせて深く礼をします。

④この表敬の後、司祭・助祭と他の奉仕者は祭壇の前で手を合わせて深く礼をしてから退出。

美しい自然の中歩き
聖なる殉教者を想う
岡山県の鶴島を巡礼

「10月の三連休は、岡山の鶴島という島へ行くんですよ。」同僚に連休での過ごし方を聞かれ、そう元気よく答えた。だが、「つるしま?」と同僚は怪訝そうに首を捻るばかり。私は面を喰らってしまった。鶴島が無人島で船すら出ない土地だとこのときはまだ知らなかったのだ。

岡山教会で鶴島巡礼の案内を見かけ「巡礼があるのか。この日は予定も空いているし、行ってみよう。」と好奇心だけで即決したがための結果である。

当日手渡された案内冊子を出発する前に船で読み、はじめてどういう場所かを知るという、何ともお粗末な巡礼の始まりだった。

とはいえ、とにかく知らない土地へ行くことに私の心ははずんでいた。しかも今日はただの観光ではない。巡礼だ。自分の信仰を振り返るまたとない機会なのだ。

この巡礼を通して、自分はどんな気づきを得られるだろうかと考えながら、勢いよく走る船の上で海を眺めていた。

鶴島に着き、殉教者の墓地がある小高い丘まで坂道を歩く。相当数の参加者が列をなして祈りを唱えており、もちろん私の耳にも入ってくるのだが、森には全く不思議な静けさがあった。余計なことを何も考えさせない静寂な空気の中で、私は無心になって歩いていた。

ミサは、僅かに切り開かれた墓地と記念碑がある丘で司式された。総勢一六名の司祭が立つ背後には穏やかな瀬戸内海の水面がきらめいていた。

私の目に映るこの美しい自然の中で大変な拷問にあった殉教者を想うと、神が為さった御業と人間の自己本位な行為との大きな隔たりに悲哀を感じずにはいられなかった。

また後藤神父様が「聖地とは人が全身全霊をかけて神と向き合った場所である」と話された際、もし自分が拷問を受ける立場であったら信仰を捨てずに貫き通せるだろうか、という考えが脳裏によぎった。

残念ながらそんな自信は無いと自分の考えを否定したときに、鶴島が聖地である所以を痛感し、身の引き締まる思いがした。

また岩永さんのお話から驚きを隠せなかったのは、私がカトリックで洗礼を受けるきっかけをくださったシスター高木の曾祖父が鶴島での迫害から生還し一族を成したという話である。

恥ずかしながら、大学時代あれだけお世話になったにも拘わらず無知であった。私が今カトリック信者として歩んでいることと聖地・鶴島は切っても切り離せない縁があると実感したのであった。

神様は鶴島巡礼を通して、思いつきで申し込んだ無知な私に、信仰上での気づきそして新しい人との出会いという大きな恵みを与えてくださった。来年は前夜からの徒歩巡礼に挑戦してみたい。殉教者への畏敬の念と花束を忘れずに。

岡山教会
三好幸知恵

船着場から殉教者墓地がある丘へ辿る巡礼の列

医療のともしび（46）

医療費の心配をされている方々へ（下）

前回、高額療養費制度について説明しました。今回は、その制度を適用するにあたって注意しておくべきことについてお話しします。

１．70歳未満の患者さんの入院の場合

これまでは、入院した場合にとりあえず医療費を払い、その後で「限度額適用認定証」を病院の窓口に提出してから限度額を超えて払った分を返還してもらうという手続きをしておりました。しかし、現在は、入院する際に「限度額適用認定証」を病院の窓口に提出することで窓口負担は最初から自己負担限度額までとなり、したがって、とりあえず高額の医療費を準備しないといけないという心配がなくなりました。

◇限度額適用認定証の交付を受けるためには、保険者（加入する各種健康組合や市区町村役場の国民年金課など）に申請を行います。

２．70歳以上の患者さんの場合

70歳以上の患者さんの場合は、すでに高額医療費の制度が取り入れられています。限度額適用認定証の手続きをしなくても入院費用の窓口負担は最初から自己負担限度額だけの支払いとなります。

３．入院費用とその支払いかた

一般的に入院費用は、月ごとに1日～末日までにかかった医療費が取りまとめられます。これを「定時請求分」といいます。わかりやすく説明すると、Aさんが1か月入院する場合、1月1日から1月31日までの入院と1月15日から2月15日までの入院の二通りが考えられます。医療費として、60万円かかった場合、前者の場合ならば80,100円+(60万－267,000円)×1%＝85,833円になります。しかし、後者の場合、1月15日から1月31日までで30万、2月1日から2月15日までで30万かかったとします。その場合は、1月分として、80,100円+(30万－267,000)×1%＝80,430円、2月分も同様に80,430円となり、合計160,860円の自己負担となってしまいます。同じ1か月の入院でもこのような違いが生じてしまいます。この違いをよく理解しておくことが大切であると思われます。

聖マルチン病院　井原彰一

＊168号の本コーナー記事、自己限度額一覧表の自己限度額（１月当たり）80万1千円となっていましたが8万1千円に訂正の上お詫び致します。

尚、「医療のともしびは」今回をもって一旦終了いたします。長い間のご愛読ありがとうございました。.

教区スケジュール

11月
- 1日（日）諸聖人
- 2日（月）死者の日（年間第３１週）
- 3日（火）文化の日
- 8日（日）年間第32主日
- 9日（月）ラテラン教会の献堂　祝（年間第32週）
- 15日（日）年間第３３主日　【聖書週間】（～22日）
- 18日（水）1日司祭集会in桜町10:00～15:00
- 21日（土）宣教司牧評議会役員会13：00　聖マリアの奉献　記
- 22日（日）†王であるキリスト（年間第３４週）
- 23日（月）勤労感謝の日
- 29日（日）待降節第１主日（C年）
- 30日（月）聖アンデレ使徒　祝

12月
- 3日（木）フランシスコ・ザビエル司祭　祝　　一粒会の集い11：00
- 6日（日）待降節第２主日（C年）【宣教地司祭育成の日】
- 8日（火）†無原罪の聖マリア　祭
- 13日（日）待降節第３主日
- 20日（日）待降節第４主日　国際交流（ICC）Xmas会in桜町16:00
- 23日（水）天皇誕生日
- 25日（金）†主の降誕　祭
- 26日（土）聖ステファノ殉教者　祝
- 27日（日）聖家族　祝
- 28日（月）幼子殉教者　祝

ＴＳＣ便り　東日本大震災復興支援全国会議報告 下

これまでの「全国担当者会議」が今回から「全国会議」と衣を替え、一般信徒を交えその「東日本大震災復興支援第5回全国会議」とし、6月28日から3日間の日程で開催された。各教区の震災復興担当者、修道会担当者と信徒が参加する中、高松教区からも4名が参加し、今回は2回目の報告となります。

今回、私は2つある視察ルートのうち、福島を回るルートに参加しました。

一日目は福島の野田町教会を出発し、二本松、郡山、いわきをまわり、二日目は、大熊町、Jヴィレッジ、富岡駅、希望の牧場、原町ベースを視察し、仙台カテドラルへ、そして、最終日に会議という日程でした。

まず、一日目、10時から野田町教会で、今回のルートの簡単な説明のあと、東日本大震災の祈りをし、バスに乗り込み出発しました。そして、第一の目的地、二本松教会に到着し、三和製作所の斎藤雄一郎氏の話を聞きました。

三和製作所は「福島に残った人を安心させるため」、「県内の人に仕事を作るため」、「県内の中小企業のシェアを広げる」といった目標をもち、現在福島県内で線量計を作っている会社です。線量計をつくる理由として、まず、海外の線量計では、量る基準が違うということ、そして、県内の人々に見えない恐怖を感じさせないためということでした。

次に、二本松教会の信徒会長で、NPO法人福島やさい畑代表の柳沼千賀子氏の話がありました。福島県内の農家から野菜を買い取り、関東の日帰圏内の、カトリック教会で販売し、県内仮設住宅に野菜を支援するのが主な活動です。販売というより、仮設住宅のすべての人とコンタクトをとるということを目的として、活動を続けておられます。

二本松教会を出て、郡山教会に向かい、そこで、NPO法人昭和横丁代表理事の志田篤氏の話を聴きました。そこでは、震災当時の話、仮設住宅で起きている問題等、ニュースに載らない事柄を語って頂き、大変貴重なお話を頂きました。

最後に、いわき教会での親睦会で1日目が終わりました。

福島　放射能の危険地域に留まって　命がけで働く人の苦労話も

2日目は、朝6時30分から、いわき教会でミサに与った後、バスで、大熊町へと向かいました。ここからは、放射線危険区域になります。

通り過ぎる車すべて除染作業の作業員が乗ったものか、放射能に汚染された土を載せたトラックばかりでした。

大熊町では、「じじい部隊」という大熊町を取り戻すために働いている方たちの話を聴きました。防火用水の確保、盗難防止が主な活動です。「大熊町の復興」を目標に今も危険区域内に留まっておられます。そして、場所を移してJヴィレッジで昼食をとるのですが、ここは、福島原発で作業をする人々の拠点となっている所で、ここから、生活が変わります。

あまり、話題にはなりませんが、今でも、私たちの知らないところで、命がけで働いている人がいることを思い出させてもらいました。

冨岡駅へ向かう途中の市内は、ゴーストタウンとなっており、不気味な静けさでした。駅といっても、駅舎は無く、線路や駅前の市内マップ、津波で崩れた家などが残っており、そこに人が住んでいた痕跡を強く感じました。

ゴーストタウンと化した市内

その後、希望の牧場へ行き、危険区域で生きる牛の姿を見たあと、原町ベースで希望の牧場を営んでいる吉沢正巳氏から、酪農家の方々の苦悩、牛を生かす為の苦労などの話を聴きました。

2日間に及ぶ視察は、ここまでなのですが、話をされた皆さんが共通して仰っていたことは、被災者の間にも、経済格差が存在すること、家族同士の分裂等といったことでした。ただ、そういった困難な中にも、自分たちの故郷を必ず取り戻すとの強い意志を持って生活している人々の姿を語って下さいました。

最終日の会議では、仙台教区の各小教区の活動報告と今後の方針などが議題として取り上げられていました。

最終的に今後は、小教区ごとの活動が重要になってくるのではということで、今回の全国会議は終了しました。

今回のことで、現地に行かないとわからない多くのことを知りました。また、私たちも、「3・11を忘れていませんよ」ということ、遠くからでも、「私たちもいつも一緒ですよ」と東北の方々と繋がっていることが大切なのだと気づかされました。

最後に、これからの高松教区、また、教区に属する小教区として何ができるでしょうか。ボランティアに行くにしても、募金活動を続けるにしても、いつまでもできるものではないでしょう。

年に一度3・11を思いおこして、ミサを捧げることや、東北の物産をバザーなどで扱うなどいくつか考えられるでしょう。

そこに、もうひとつ、私から、個人で気軽にできる支援の仕方を提案したいと思います。それは、東北旅行です。旅行に行って東北でお金を使う。これも大切な支援です。いかがでしょうか、旅行を計画している方々がいらっしゃるなら、そのお金と時間を、少しでもよいですから、東北に回してあげて下さい。お願いします。

ヨセフ・ガブリエル　兵頭俊介

TSC高松教区サポートセンター
東日本大震災大船渡支援
献金入金報告（含切手券）
（8月31日～10月7日分として）
8万2400円
累計（10月7日現在）
1千645万4028円

年に一度3・11を思いおこして、ミサを捧げることや、東北の物産をバザーなどで扱うなどいくつか考えられるでしょう。

そこに、もうひとつ、私から、個人で気軽にできる支援の仕方を提案したいと思います。それは、東北旅行です。旅行に行って東北でお金を使う。これも大切な支援です。いかがでしょうか、旅行を計画している方々がいらっしゃるなら、そのお金と時間を、少しでもよいですから、東北に回してあげて下さい。お願いします。

ヨセフ・ガブリエル　兵頭俊介

編集後記

夏の猛暑に悩まされた後、気持ちの良い秋晴れの連続は我慢へのご褒美か。

信徒発見150年に浦上4番崩れゆかりの島、鶴島を初めて訪問する機会に恵まれた。信仰の先達を慕う多くの巡礼者の輝く表情から何とも言えない勇気を頂いた。この勇気が大聖年の恵みに繋がり、より大きく育つように願っている。（J）

168号訂正とお詫び

- 教区スケジュール（p4）
  31日(日)教区女性の会in江ノ口を31日(土)
- 福島の子どもたちがうどん作り楽しむの記事の文末は「これからの歩みと健康を心からお祈りいたします」となっています。

以上、訂正してお詫び申し上げます。

資料提供へのお願い

番町教会は2022年、創立100周年を迎えます。そのための資料収集を計画しています。特に、創立当初から戦前の写真や教会報等をお持ちの方の協力をお願い致します。　番町教会広報部　☏ 087-823-0430　FAX 087-823-0431

新　刊　書　籍　紹　介

■秘跡・聖霊のたまもの・教会
教皇講話集

「七つの秘跡」「聖霊のたまもの」「教会」という、2014年内に一般謁見で行われた三つの連続講話を収録。

独特のユーモアと温かさをもって信仰生活の意味と本質が平易に解説されるとともに、使徒的勧告『福音の喜び』で教皇が訴えた数々の主題が、随所に力強く語られる。求道者にとっても、受洗後日の浅い方にとっても、長く信仰生活を生きてこられた方にとっても、新鮮さが感じられる読み応えのあるカテケージです。　本体価格：650円　頁192

カトリック中央協議会出版部

■クリスマスの夜

アリソン・ジェイによるオーソドックスなクリスマスの物語。やさしくあたたかいイラストで、安らかな気持ちにさせてくれます。

はじめてのクリスマスの夜のこと。空いっぱいにひびく天使の歌に、馬小屋へいそぐひつじかい。光りかがやく星にみちびかれる遠い国のはかせたち。小さな馬小屋のかいばおけにねむるマリアから生まれた子、それは……すべての人にもたらされるうつくしい、神さまの愛のお話です。文／ロイス・ロック　絵／アリソン・ジェイ　訳／関谷義樹　25頁　価格1,080円　ドン・ボスコ社

聖ドミニコ宣教修道女会

医療法人社団聖心会　阪本病院
わたしたちは、患者様の立場に立った全人医療を行い、地域の皆様に愛され信頼される病院を目指します
院内保育園完備

整形外科・脳神経外科・泌尿器科
皮膚科・外科・消化器外科
肛門外科・乳腺外科・形成外科
呼吸器外科・呼吸器内科・内科
リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
〒769-2602
香川県東かがわ市川東103-1
☎0879-25-1121（代）
http://www.sakamoto-hosp.or.jp/

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園